

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490500564		
法人名	株式会社レモンの里で暮らす会		
事業所名	グループホームレモンの里		
所在地	三重県津市神納418-1		
自己評価作成日	令和 3年 3月 20日	評価結果市町提出日	令和3年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyosyoCd=2490500564-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社
所在地	510-0947 三重県四日市市八王子町439-1
訪問調査日	令和 3年 3月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「健康とオープン」を基本理念とした、自由で豊かな暮らしの実現を目指します。
 少しでも外気に触れることが元気の源と考えて、散歩・外出を積極的に支援します。
 既成概念にとらわれず、利用者も職員も自分の力を発揮し、普通の暮らしを目指します。
 マニュアルは極力作らず、職員は状況に応じて、考えて行動する事を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

レモンの里は、介護の既成概念に捉われない「健康とオープン」を基本理念とした、「自由で豊かな暮らし」の実現を目指す事業所である。昔、自宅で高齢者が過ごしていたであろう普通の暮らしを再現し、最期は看取りの為の退院を助めて利用者が「自然な暮らし・自然な最期」を送れるよう支援している。コロナ禍で外出や地域との交流は制限されているが、利用者は果樹や花壇のあるガーデンを散歩したり、鉄棒やブランコを使って健康的に生き生きとした生活が送れている。食事は市場から新鮮な魚や野菜を調達し、専門の料理人による食べる楽しみを利用者に提供している。近隣住民ボランティアや行事はできない状況にあるが、事業所紹介をユーチューブ放映する等の取り組みを行い、地域との交流を継続している。感染防止対策の確実な実施と共に、理念に基づく利用者の「自由で豊かな暮らし」の実現のため、職員含む事業所全体で課題を洗い出し変化も求めながら様々な工夫と改善に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない ○ 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を『健康とオープン』という短い言葉で表現している。職員それぞれがその言葉を理解して、自分達がどうすれば、理念に合致した介護が出来るかを常に考える体制にしている。	基本理念である「健康とオープン」の暮らしの実現をめざし事業所職員が共有している。認知症であっても普通のお年寄りと同じように暮らしていくことを最終目的とし、自身が高齢になった時に暮らしたい施設・受けたい支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族の会全国研究集会で取組の発信。小規模ケア研究会理事として、広報活動を行っている。昨年は中止になった交流コンサートを、次期は津市のコンサートホールで無観客で行い、ネット配信し交流を続ける。	コロナ禍で、施設への立ち入り、面会は制限されているが、庭や部屋のガラス越しで地域の人たちとの交流が行われている。ボランティア等の行事は中止になっているが、無観客でYouTubeによるコンサートも計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ズーム研修に積極的に参加し、主催者とも連絡している。 ガーデンをオープンにしており、ブランコ・鉄棒を新設し、地域の人々の公園としても利用していただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は書面報告形式にし、参加者に配布している。行事の報告や、ホール内の環境整備の一環として、観葉植物の配置・熱帯魚やめだかの水槽を配置したことなども報告している。	運営推進会議はコロナ禍のため、昨年秋以降施設内の会議から書面による報告(連絡)へ変更している。書面で意見を募ってはいるが、参加メンバーからの意見やコメントは出していない。	書面報告で一方通行になっているため、報告内容や連絡方法など意見交換できる工夫や取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍で、小規模ケア研究会役員として、津市との防疫体制構築の連携づくりを行っている。代表者が、本年から介護専門学校の講師として、就任予定となっている。実習生の受け入れも行っている。	コロナ禍のため、以前のように運営推進会議で市や包括職員と話す機会はなくなったが、市へ届出等で出向いた際に説明、報告を行っている。尚、介護認定はコロナ禍のため認定延長(特例)ができるようになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関・居室を無施錠としている。職員から見るとその原因が把握できない行動をとられる方も見えるが、本人にとっては、目的のある重要な行動をして見える事を理解し、自由な行動をしていただいている。	毎月行われるケア会議で議題を挙げ事例について話し合い勉強会を行っている。コロナ禍で研修参加の機会がない。新しい職員には自由でオープンなレモンの里の理念を理解してもらうと共に拘束がないよう気をつけている。	コロナ禍で研修の機会はないが、可能な研修方法(例えばYouTubeやズーム等のウェブ媒体を活用しての社内・社外研修等)の工夫や検討を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、他のGHと合同で、講師を招いて研修を行っている。 虐待については、何が虐待に当たるかということと、その原因・要因について平素から職員間で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理職は成年後見制度の研修を受講済。成年後見制度を利用した方の、メリット・デメリットについても経験している。成年後見制度は正しく使うことが大切で、その方向性を家族・親族と話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族の希望を叶えるようにしている。自宅からの持ち込み物の希望を尊重し、家具など本人の希望に沿って、自宅から搬入・購入などしている。利用料については上限を明示して、安心感を得ていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にとっても、本人にとっても「安心」という言葉が一番大切と考えている。安全に走るのではなく、「安心」を提供するように努めている。	コロナ禍のため利用者家族の面会は庭で距離をとったり時間を制限して意見を交わしている。利用者の状況や要望は、職員がよく理解していて家族に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議と、連絡票を活用している。責任者は常にホームにいて、日常的に職員と話し合っている。レク・リハビリ用品などは、職員が必要について話し合って決定している。	ケア会議で事業所内の連絡や運営推進会議報告用の書面の報告を行い情報共有し、意見等を吸い上げている。特に経験の浅い職員(スタッフ)の人の意見を重視している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各人の日常生活を大切にしたい、休日・勤務時間の希望に沿うようにシフトを組んでいる。職員は利用者目線で考慮し、必要と思われるものは、職員自身の判断で購入・調達するシステムとしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ズームでの研修を活用している。資格取得を進めて、ケアマネ試験合格・介護福祉士合格など成果を上げている。女性の大活躍推進三重県会議に参加し、女性の能力発揮の機会を創設している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会の役員として活動。他事業所と連携、入居希望者の相互紹介・余剰品の交換・防災用品の共同購入など行っている。三重県福祉セミナー実行委員 小規模ケア研究会役員		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と話し合う機会を持ち、家族とも事前に希望を聞くこととしている、また、レモンの里の看取り方針、外出などの実施についても説明をし、本人の希望が叶う方法を互いに共有するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	屋外へ出たがる人には、制限をするのではなく、希望を叶えることで、家族が安心される。医療体制も、十分な聞き取りをして、対応策を話し合っている。看取り実績・内容を開示することで家族の安心を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の希望を叶える配慮。例:Aさん…花作り用に、居室から直接ガーデンへ出られる幅広階段と手すりを作成した。ベッド・家具など本人の希望に沿って、自宅から搬入・購入などしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんを花づくり・手入れ、食材を切っただけ、一諸に掃除をするなど、生活の場に参加してもらえるように工夫している。そして、その時に職員が利用者さんに『ありがとう！』と言えることを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出・小旅行時には、家族にも参加いただき、介助を共にすることで、ともに考える機会になっている。旅行・外出は家族にとって大切な『思い出作り』となっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人との面会には、ガラス越しではあるが、時間や事前連絡の制限を設けず、いつでも来ていただける環境としている。	コロナ禍で馴染みの場所や人との交流は自由にできないため、ガラス越しで家族や友達との面会を行ったり、自然豊かな庭での散歩や懐かしいビデオの視聴を行い馴染みの関係を維持している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの席の配置を工夫し、プライベートな空間を作りながらも、お互いの存在を意識できるようにしている。職員が介在しながら、食事作り、洗濯などの作業をして、孤独感を感じないように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終末期になっても、ホーム内で看取りをすることを原則としており、共に暮らした人々の見送りとして手作りの葬儀を行っている。また、毎年5月に家族に集まっていただき慰霊祭を行って関係性を維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時点では、ご自身が意向を表出されることが多く、その希望と、重度化に伴う変化に対応してケアの方向を定めている。	重度化が進み意思を示せない利用者もいるが、食介や入浴、排泄等の支援時の観察や検討を通して、また本人の性格からも意向を推察するよう努めており、家族以上に利用者の意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族と話し合う機会を持つこととしている。入居後に本人と家族同行で『ふるさと訪問』をすることなどで、家族が思いも寄らなかったような経験や、記憶、考えが本人の口から表出されることが多くみられる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一律的な日課によるサービスでなく、個々の方に寄り添った日常生活、個別性を尊重したりハビリなどで、自然と利用者さんの身体機能・精神世界が理解できる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、本人・家族・関係者と話せる環境にしており、利用者さんの状況に応じた対応をとっていることとしている。毎月のケア会議では、基本的な方針を定め、日々の変化に対応できるケアプランを作成している。	毎月のケア会議で利用者の希望を聴き医師、看護師、家族、職員から集めた情報を基に話し合い、利用者の意向に沿った介護計画を立てている。支援状況等、きめ細かなモニタリングが行われて、四半期毎に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの記録は、利用者さん一人一人に対応した項目を配置した個別書式としている、介護計画が日々の実態に即した記録となっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活を支えるグループホームと云う観点からリハビリ・医療・外出などの自然な形での支援を行い、職員が直接、医師・医療関係者と話し合い、本人・家族・職員との調整役を担っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	往診・訪問歯科などは、随時対応いただける体制があり、Drともなじみになっていて、本人・職員がDrに希望を伝える自由な発言をしている。安心が安全を支えるものと認識している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には管理職の職員が必ず付き添うこととして、介護職としての専門性をもって医師と治療プランを検討している。	かかりつけ医との信頼関係が保たれており、医師と協働して介護の側面から治療を支援している。病院への受診は、管理職が付き添い、入院時も毎日面会し、安心して貰うと共に経過を把握しスムーズな退院に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師2名在籍。職員とは面談・Tel等で随時意見交換ができています。看護師は平時の医療相談・入院時の病院・受診手配などを担当。また、専門的な爪切りなども担当している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	在籍看護師が常に病院とコンタクトをとって、病院の内情にも詳しい。管理職も病院とは関係性を保っている。当ホームの実績から、早期退院・看取り退院など積極的に対応していただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居希望時から、看取り方針を説明して了解いただいている。実績を説明することで家族は積極的に援助していただける。基本方針は定めるが、家族の意向の変化にも即時対応してかかりつけ医と協調して看取りに取り組んでいる。	契約時に看取り方針を伝え、介護計画に盛り込んでいる。本人にも入所時に解り易く説明し、体調変化や重度化する度に家族と話し合い、看取り期には家族の最終判断を共有するようにしている。また感染症防止対策として看取り期の対応や面会所の設置(ガーデン内)について取り決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	摂食・入浴・排泄時に急変や事故は起こりがちであり、注意すべきポイントについて職員に周知している。すべての職員が完璧な対応ができるわけではないので、異変時に複数の職員が対応できる体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震対応用としてガーデンの一角にビニールハウスを設置してある。ビニールハウスを活用するように資材も準備されている。水害には隣接有料老人ホーム2階を使用する。	避難場所は、利用者の環境不安や、避難経路に不安があることから施設に留まる事としている。水害時には、隣接の有料老人ホームの2階へ避難する事としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士の会話時に利用者氏名・作業内容を他の利用者の前で大声で話したりしないようにしている。排泄介助時は特に注意を払っている。	人生の先輩として一人ひとりの人格を尊重し、利用者の気持ちを汲み取りながら目をあわせゆっくり話し掛けることを心がけている。特に認知症高齢者のプライドと不安に配慮し、また安全面での対応は利用者と家族の理解を得て、支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度化によって、自己の希望を表現できない方が増えているが、以前の好みなどを把握して支援している。表情やしぐさなど些細なところから読み取っている。身の回りなどできる方は思い通りにされている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課・手順書などを作成せずに、個々の人が自分のペースで起床・就寝。食事時間も朝は起床した人から順次とっていただいている。本人の希望に沿ったほうがスムーズに援助ができる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師資格職員がいて、常時整髪している。いつでも面会・外出ができる服装で過ごしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リハビリとコミュニケーションの機会であると考えて、食事の下ごしらえなどをしていただいている。包丁などは上手に使われる。	代表者や支援者が直接市場で鮮魚類を買い入れ、地域の方から頂いた野菜を食材に使い利用者の好みを考えて献立を作っている。重度の人には刻み食も提供しているが、必要以上に刻まず食感や見た目でも楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量・バランスを職員側が決めてしまうのではなく、食事は楽しむものだという考えで、必要量は確保しながら本人が望むようにとっていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨きをされる方も見えるが、職員がチェックするなどしている。訪問歯科を利用し、定期的に専門的な口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度化に伴って、紙オムツ類が多くなっている。職員は、その人の習慣や、体調を見て、個々に合わせた支援をしている。	利用者の重度化が進み、排泄の自立支援は難しくなっているが、個別のチェックシートで、一人ひとりのパターンを熟知し利用者の様子を感じ取り自然な感じでトイレ誘導している。オムツ利用者でも便座へ座ってトイレで排泄できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べる意欲を引き出すとともに、運動をしながら体調を整え食材の工夫をして、薬に頼らない配慮をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	『誰もが一番風呂』、一人ひとり湯を入れ替える個室としてゆったりと入浴していただいている。二人介助・機械浴も一部実施して安全策をとっている。	個室で一人ずつお湯の張り替えが行われ清潔である。時間を決めずゆったり入浴できる工夫も行っている。身体に負担のかからない様リフト浴を利用したり、脱衣室はエアコンにて浴室との温度差解消等の対策を取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分で動ける方は、自由に起床・就寝している。体力を維持するためにも午睡は有用であるので、ホールのソファや居室で適宜休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日頃の服薬と、その効果について職員間で話し合っている。医師の指示通り服薬するのが目的でなく、薬の必要性についても考えながら医師と連携をとって支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室・ホールのテーブルには種々の書籍を配置。また、楽器・昔なじみの道具や玩具を配置していつでも手が伸ばせるようにしている。さりげなく職員が歌いだすことで、一緒に歌われるようになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホール・居室の大きな掃き出し窓から外が眺められ、室内には風景写真などを配置して、散歩や、外へ出たいと思う環境を作っている。家族や地域の人々が参加する交流コンサートやふるさと訪問にとりくみ、本人の希望の表出につなげている。	利用者の重度化やコロナ禍のため、以前のような外出支援はできていないが、デッキに自由に行き来ができ、お茶を飲んだり果樹や花壇のある自然豊かなガーデンを自由に散歩したり収穫を楽しむことで外気に触れる機会を増やしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在個々の人が必要とする物品はホームで調達できるので、お金の必要性が見出せない。金銭所持の希望があれば対応することとしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍のために家族とは距離感が出ているが、平素は家族が頻繁に来訪されている。年賀状など届いた手紙は本人に読んでいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に肉筆の絵・つる植物・観葉植物・手近に楽器・書籍類があり、利用者さんの気持ちを和らげている。	玄関には季節感の漂う身の丈程の大きな生け花があり、廊下壁には絵が飾ってあり座って話せる色々な椅子が置いてある。ホールには誰でも触れられる沖縄三味線や様々な楽器を置いている。またホールからデッキに出てお茶を飲んだりくつろぐことのできる憩いの場がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が話し合っ、入居者さんの居心地の良くなるラウンドテーブルを作成して使っている。向かい合わせの人の直接の視線を遮り、人によって隣席との距離感をとって、落ち着けるプライベート空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設らしくない・なじみの物品や写真に囲まれたやわらかい空間になっている。本人・家族の思いのこもった家具・調度品を配置して家族も落ち着ける空間になっている。	職員が利用者の状態に合う様に安全面も考慮し工夫して電動ベットや畳を置いている。家で使い慣れた馴染みの家具や家族の写真、絵画などを置いてその人らしい自宅同様の雰囲気醸しだしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	『危ないから撤去する』という考えを排除し、それぞれの利用者さんにとってわかりやすく、安心して使える、落ち着ける空間づくりをしている。わかりやすい障害物や、適度な段差は自立生活に欠かせない。		